

「夢」という字の部首は「艸」ではない。漢字には未だに驚かされることがある。「夢」の部首は「夕」。「この部首には「暗い、ぼんやりした、よく見えない」という意があるという。さらに「イ」を添えると「儂(はかな)い」という字となる。夢の横に人を添えると「あっけなくむなし」く消え去っていくさま」という意になってしまう。

この夏、先の大戦において、若くして命を落とされた方々の遺言状を読む機会があった。その中の一通に、知覧より特攻隊として出撃し、終戦の年の四月に二十三歳の若さで戦死された穴澤利夫大尉の物があった。彼には智恵子さんという婚約者がおり、彼女から贈られたマフラーを巻いて出撃したと言われている。

「あなたの幸せをねがう以外に何物もない」「過去を忘れ、将来に新活面を見出すこと、穴澤は現実の世界にはもう存在しない。」「二度と会えぬ婚約者に対して決別の思いを刻んでいく。そして、最後に「ちよっぴり慾を言ってみたい」とあり、「一、読みたい本、二、観たい絵」と続く。そして「三」のあとに少し空間を置いて、「智恵子、会いたい、話したい、無性に」と思いが一気にあふれる。

愛する人とただただ会いたい、話したいというささやかな夢。それさえ叶えることを許さず、儂く散ったこの若者の人生は、何と悲壮な歩みであったのだろうか。

終戦から七十七年。だが、今この時間にも世界には戦火にさらされている人々がいる。戦火の下には絶やしてはならぬ多くの夢の灯が揺らめいているのだ。暗かったあの時代の教訓を私達は今こそ生かさなければならぬ。

「ゆめ」と読む字は「夢」に他に「努」がある。私は職業柄、子供達と夢について話すことが多いが、その目はいつも輝いている。私たち現代に生きる人々は、地球上に生きる全ての人々が夢に向かえるよう、共に環境を作る「努」力を続けていくべきだろう。